

# やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	20 / 1975 / 50-53
タイトル	野内川の昆虫について
著者名	石沢尚史

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

# 野内川の昆虫について

二年 石澤尚史

やぶなべ19号に大半を記載してあるから、ここでは、その補足、及び考察を発表する。

## 鱗翅目

### セセリ科

コキマダラセセリ 23-VII-1974 lex 下折紙付近 石沢

### シロチョウ科

スジグロシロチョウ 16-VI-1974 28 // 佐井

### タテハ科

ヒメアカタテハ 16-VI-1974 カバハギ沢 目撃

佐井誠氏は採集に失敗したが、非常にゆっくり飛んでいたため確実に断定した。

オオウラギン<sup>スジ</sup>ヒョウモン 16-VIII-1974 3号 平沢 石沢

## 半翅目

### カメムシ科

ナガメ 16-VI-1974 lex 下折 石沢

アカスジカメムシ // // // //

## 膜翅目

### スズメバチ科

キイロスズメバチ 4-VIII-1974 1.職 カバハギ 石沢

### ミツバチ科

コマルハナバチ 10-VI-1974 lex 下折 //

## 双翅目

ミカドガガンボ 5-VIII-1974 lex 池沢部落 石沢  
16-IX-1974 // 平沢 //

蜻蛉目

ミヤマカワトンボ	21-VII-1974	1♂	下折	石沢
クロイトトンボ	21-VIII-1974	1♂	矢田	木村
オオイトトンボ	〃	1♂1♀	〃	〃
ムカシトンボ	13-V-1962	1♂	下折	竹内暁夫 (ヤブタバコ号より)
ヒメクロサナエ	10-VI-1974	1ex	〃	佐井
オニヤンマ	18-VIII-1974 21-VIII-1974	2♂ 1♂	下折	木村
オオルリボシヤンマ	18-VIII-1974	1♀	下折	〃
カトリヤンマ	〃	1♂	〃	〃
シオカラトンボ	〃	1♂1♀	滝沢村	〃
オオシオカラトンボ	〃	1♂	〃	〃
ノシメトンボ	〃	1♀	下折	〃
ミヤマアカネ	〃	1♂	〃	〃
アキアカネ	〃	〃	〃	〃
マユタテアカネ	〃	1♀	〃	〃

脈翅目

ヒメカミキリモドキ	16-IX-1974	1ex	平沢	石沢
-----------	------------	-----	----	----

直翅目

カンタン	16-IX-1974	3♂4♀	〃	〃
------	------------	------	---	---

考 察

野内川の総合調査は、今年で、二年目になったが、今年の確認種は、そう多いものではない。蝶類以外は、よく確認されていない。これは、生活環境が多種多様、行動範囲の広い陸上性昆虫を調べるには、人員がたりない、ということが、最大の原因であろう。ここでは、蝶類を基にして、野内川の昆虫相を論じてみたい。

<昆虫相を特徴づける種について>

○ウスバシロキョウ。

この種は河岸に発達した河岸段丘や、扇状地、日当たりのよい山麓などのゆるやかな斜面にみられるが、野内川の主な発生地は、伐採後の平地や、山麓である。(唐川沢, 平沢)

これは食草のムラサキケマンが、そういう環境に生育するためであろう。したがって、今後伐採面積が、増すに  
したがって、この種も勢力をのばすであろう。

○コムラサキ。

食樹のヤナギ類は、非常に多いため、コムラサキも上流から中流まで、いたる所で(川の近く)発生している。

ヤナギは河原などに多いが、野内川の場合、砂防ダムのため(?)、上流、中流の区別はなく、河原が、多い。

○ウラナミアカシジミ。

ウラナミアカシジミは、野内川では採集されていない。

これは、ウラナミアカシジミは、コナラなどの老木を好んで食樹とするためである。また単に、老木の問題だけでなく、この種自体に 湿潤を好まない性質があるのだろう。

このことは、伐採地以外の森林は、よく自然状態が、保存されているためであろう。

○フジミドリシジミ。

この種は、ブナを食樹としている。ブナは、青森県での水平分布は、海岸からであるが、現在、青森市では、標高500m以上でないと純林を見ることはできない。

野内川では、標高150mぐらゐから(純林ではないが)

ることが出来る。フジミドリの産地としては、標高の低い方であることは、まちがいない。

(キハリタテハ, エルタテハ)

迷蝶としてあつかわれているが、これほど低くまで降りてくるのも珍しい事であろう。

#### ○ウラジロミドリシジミ

野内川には、カシワが生きていないため、カシワのみを食樹とするこの種は採集されていない。

カシワは、乾燥した所を好むから、河川の流域には、生息しないのであろう。

この種もウラナミアカシジミと同様、食樹だけの問題ではなく、種としての性質ではないかと考えられる。

また、ウラナミアカシジミは、高地、深山に分布しないためでもあろう。

### ま と め

滝沢(野内川流域)は、非常によく自然が残っていることが、証明される。しかしその反面(自然破壊までとはいわなくとも)環境のくすれた所も多いことも証明できる。

昆虫などは、森林の変化の影響を直接受けている。

昆虫相を考えると、河川の流域下における温帯広葉樹林の昆虫相と、顕著に示している。

### 参 考 文 献

- 藤岡 知夫 日本の上 ニューサイエンス社  
福田 晴夫他 原色日本昆虫生態図鑑 柳編 保育社  
川沢 潤他 青森県植物誌 厚典日報社

その他